1. 特定本邦航空運送事業者（※）に関する航空輸送サービスに係る情報公開（令和5年10月～令和5年12月）のポイント

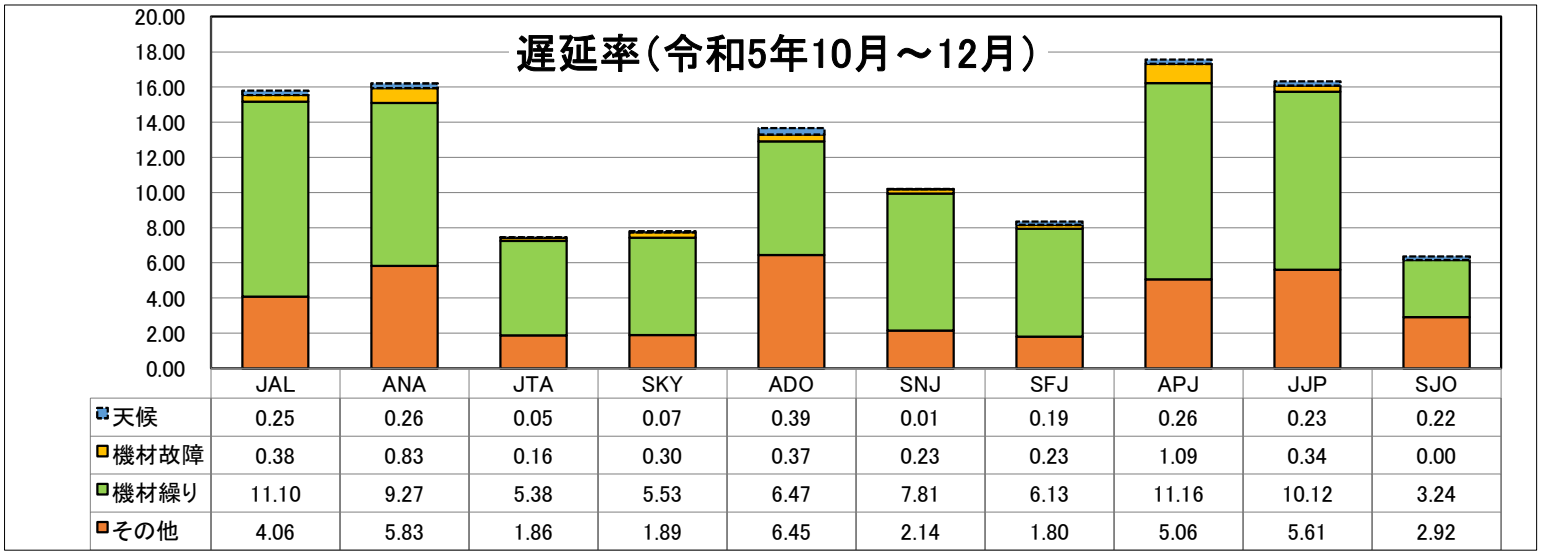
※特定本邦事業者
○日本航空:JAL
○全日本空輸:ANA
○日本ﾄﾗﾝｽｵｰｼｬﾝ航空：JTA
○ｽｶｲﾏｰｸ：SKY
○AIRDO：ADO
○ｿﾗｼﾄﾞｴｱ：SNJ
○ｽﾀｰﾌﾗｲﾔｰ：SFJ
○Peach･Aviation:APJ
○ｼﾞｪｯﾄｽﾀｰ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ:JJP
○ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ：SJO

1．輸送サービスの比較等に関する情報

（１）遅延率（令和5年10月～令和5年12月）

当期実績	前年度同期実績	前年度同期との比較
14.66%	10.81%	3.85ポイント増

※「遅延便」とは、出発予定時刻より15分を超えて出発した便をいう。

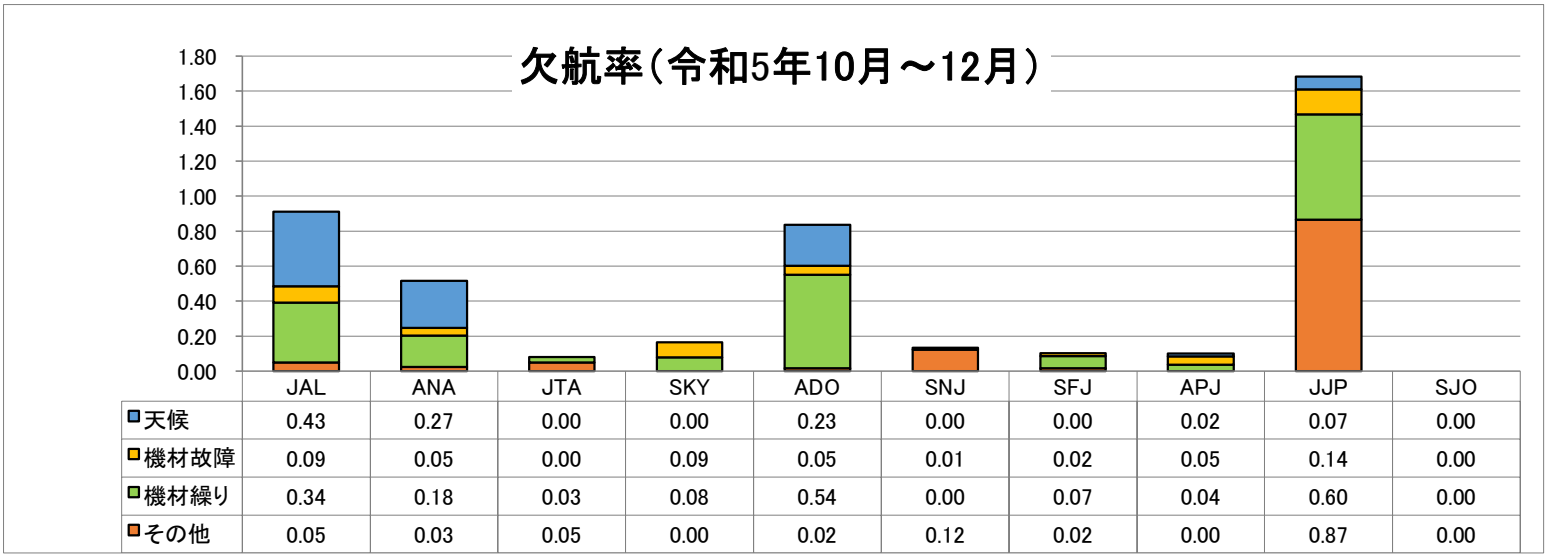


	JAL	ANA	JTA	SKY	ADO	SNJ	SFJ	APJ	JJP	SJO
天候	0.25	0.26	0.05	0.07	0.39	0.01	0.19	0.26	0.23	0.22
機材故障	0.38	0.83	0.16	0.30	0.37	0.23	0.23	1.09	0.34	0.00
機材繰り	11.10	9.27	5.38	5.53	6.47	7.81	6.13	11.16	10.12	3.24
その他	4.06	5.83	1.86	1.89	6.45	2.14	1.80	5.06	5.61	2.92

※対象となっている路線が各航空会社によって異なっており、路線毎・季節毎に欠航・遅延の特性が異なることから、単純な比較には適さない。
（夏期は沖縄路線等で台風の影響を受けやすく、冬季は北国等で積雪の影響を受けやすいなど。）
※複数の要因がある場合、もっとも影響の大きい事由に含む。
※機材繰りとは、前便が何らかの理由で遅延運航になり引き続く次便が遅延運航となる場合をいう。
※今後遅延率のデータの集計方法について到着ベースの集計とする方向で検討しています。

（２）欠航率（令和5年10月～令和5年12月）

当期実績	前年度同期実績	前年度同期との比較
0.62%	0.68%	0.06ポイント減



	JAL	ANA	JTA	SKY	ADO	SNJ	SFJ	APJ	JJP	SJO
天候	0.43	0.27	0.00	0.00	0.23	0.00	0.00	0.02	0.07	0.00
機材故障	0.09	0.05	0.00	0.09	0.05	0.01	0.02	0.05	0.14	0.00
機材繰り	0.34	0.18	0.03	0.08	0.54	0.00	0.07	0.04	0.60	0.00
その他	0.05	0.03	0.05	0.00	0.02	0.12	0.02	0.00	0.87	0.00

※対象となっている路線が各航空会社によって異なっており、路線毎・季節毎に欠航・遅延の特性が異なることから、単純な比較には適さない。
（夏期は沖縄路線等で台風の影響を受けやすく、冬季は北国等で積雪の影響を受けやすいなど。）
※複数の要因がある場合、もっとも影響の大きい事由に含む。
※機材繰りとは、前便が何らかの理由で遅延運航・欠航になり引き続く次便が欠航となる場合をいう。

２．運賃関連情報

（１）輸送実績（令和5年10月～令和5年12月）

項目	当期実績	前年度同期実績	前年度同期との比較
平均搭乗区間距離	951km	958km	0.74%減
輸送人員	2640万1188人	2462万6945人	7.2%増
輸送人キロ	251億0453万6千km	235億9199万1千km	6.41%増
旅客収入	3896億88百万円	3338億51百万円	16.73%増
輸送人員あたり 旅客収入	14.8千円	13.6千円	8.88%増
輸送人キロあたり 旅客収入	15.5円	14.2円	9.69%増

（２）路線別データ（令和5年10月～令和5年12月）

①旅客数

上位５路線は次のとおり。

	当期実績	前年度同期実績
羽田ー福岡	231万4845人	（216万0766人）
羽田ー新千歳	222万5512人	（200万5542人）
羽田ー那覇	166万4313人	（167万8587人）
羽田ー大阪	132万2208人	（125万3722人）
羽田ー鹿児島	64万8407人	（59万3007人）
全　路　線	2596万7474人	（2423万0895人）

②利用率

上位５路線は次のとおり。

関空ー釧路	92.94%(68.92%)
関空ー女満別	92.05%(61.81%)
那覇ー与論	91.99%(87.89%)
下地島ー成田	91.64%(88.12%)
札幌ー那覇	91.55%(77.64%)
全　路　線	75.3%（69.6%）

下位５路線は次のとおり。

丘珠ー奥尻	46.43%(41.64%)
下地島ー那覇	46.1%（32.6%）
函館ー奥尻	49.77%（42.5%）
那覇ー久米島	49.82%（46.2）
新千歳ー釧路	50.1%（46.6%）
全　路　線	75.3%（69.6%）

３．フレックストラベラー制度（※）に関する情報

令和5年10月～12月における、フレックストラベラー制度を有する航空会社の全輸送人員に対する不足座席数の割合（１万人あたり）が高かった特定本邦上位３社は次のとおり。

（※）オーバーセールス（提供座席数を上回る予約客を受け付けること）の発生が判明した時点で、自主的に搭乗を取りやめる旅客を航空会社が幅広く募集する。

		全輸送人員に対する不足座席数の割合（１万人あたり）	
		当期実績	前期実績
①	スターフライヤー	3.23人	1.06人
②	全日本空輸	0.89人	1.21人
③	ソラシドエア	0.41人	0.17人
	全社平均	0.49人	1.00人

※今回の公開項目の詳細、及び過去の公開資料につきましては、国土交通省のホームページ上にてご確認頂けます。

(URL)http://www.mlit.go.jp/koku/15_bf_000727.html